

## お母さんの仕事と

### 乳幼児保育の問題

白梅学園短期大学 久保い と

育児上もつとも手間のかかる一、二才児の福祉が、母親の労働とどのような関係におかれているかを、母親を対象とした質問紙調査によって明きらかにした。白梅学園短大におけるゼミナールのテーマとしてとりあげたため、調査地域は学園周辺の東京都杉並区高円寺六、七丁目、馬橋四丁目をえらび、住民票によって昭和三十一年一月以降出生の乳幼児をもつ五七四世帯から二〇〇世帯を無作為抽出して、質問紙を郵送した。回収率は八〇%である。

質問<1> 「おたくではお母さんは毎日どんなお仕事をしていますか。しゃいますか。」

中産階級の住宅地であるために、七六%は「家事だけしている」、その他「家業のついで」、または何らかの職業をもつ人が二三%。

質問<2> 「お母さんがお仕事のあいだお子さんの保育はどなたがなさいますか。」

「家事だけ」している母親の場合、七六%が自分で保育し、家人が二二%、他人にたのむが二%となる。これらの母親たちでも、質問<3> 「三才以下の小さいお子さんのための保育施設の必要性についてどのようにお考えですか。」については、七七%までが「必要」と答えている。その理由については巾広い要求があげられている。

一方職業をもつ母親の六四%までは、ひとり仕事と家事と育児の三重責任を負っており、「家族が保育する」二六%、「他人にた

のむ」一〇%という結果が出た。故に職業をもつ母親の八五%が乳幼児保育施設の必要を痛切に訴えていた。このりの一五%は女中さんなどによりすでにこの問題を個人的に解決済みだからであった。これらの母親たちは清潔で愛情にみちたいい施設が早くできることを望んでいた。特に保育料については、真に必要な人たちが十分利用できるように低廉または無料であること、そのためには国の社会保障政策の一環として運営される施設であることを指摘していた。

### 三才組の保育材に対する

### 適応の変化

東京・神田寺幼稚園

阿部 明子  
森崎 君枝  
深野 浩代

主旨 従来、見落とされがちであった三才児の保育計画をたてるために、その基礎資料となる、幼稚園における三才児たちの実態を捉えることを目的とした。

方法 (A) 保育計画をたてるために必要であり、また、子どもたちの変化を把握しやすい行動を取りあげ、次の一二項目を設定した。

・全体の傾向・運動能力・生活発表・お話し・質問による思考と感情の変化・絵画・製作・粘土・歌と楽器・遊びと競技・ごっこ遊び・園外保育

(B) 過去二年間の保育観察記録ならびに評価反省録より、上記項目の行動を抽出、月別に整理する。

(C) 二年間の共通点および、現在あるいは過去八年間の観察を参